

プロローグ

この冊子は、第二の人生から第三の人生に移る際の私の人生の区切りになるイベント、大分大学退職記念行事の記録集です。三部構成になっています。開催された日時に合わせて時系列で並べると、記念講演会、病院長退職記念祝賀会、仲間たちとのトークコンサートになります。これらの行事が行われた3月下旬は、医学関係の学会が開催されるシーズンの真ただ中であったため、来られなかった方も多かったにもかかわらず、全国から多くの方々にお集まりいただき、退職を祝っていただきました。身に余る数々のご祝辞に、ただ感謝あるのみです。退職記念祝賀会関連行事は、その人の人生の集大成でもあり、また最も輝く瞬間といってもいいかと思います。

その後、十年近くの歳月が流れました。ある期間私と一緒に学んだ後輩の中から、各地の大学で研究・教育に専念する教授として活躍をしている人の数は、いまでは十人をゆうに超えるまでになりました。医療の現場で日々献身している人の数は、数えきれません。縁あって出会い、一緒に仕事をする機会に恵まれた多くの仲間達に、感謝の念で一杯です。退職記念講演の終了後には、思いもかけず多くの方々から花束と温かい祝辞をいただき、またその後、医学生から寄せ書きが2枚届けられ、感激しました。

時は留まることなく、流れていきます。少し離れた時点に立って、一人の男の人生としてこの記録集を眺めてみると、キラキラと輝いてみえます。そのように見えるときがあったということは、なかなか得がたいことで、本当に幸せなことです。ごく自然に頭に浮かんできたのが「夢は夢ならず！」というフレーズでした。英語にすると、“Dreams come true.”です。そこで、記録集のタイトルとして、三冊のすべてに、このフレーズを入れることにしました。トークコンサートの最後に、アンコール曲として、退職の時点での自分の気分に最もフィットした歌詞の含まれた中島みゆきの「ヘッドライト テールライト」を歌わせていただきました。そのラストで何度もリフレインされる「旅はまだ終わらない！」という言葉を、下の方に書き添えました。十年経ったいまの気分も、変わっていないと感じるからです。

ライブで生まれるパフォーマンスは、そこに参加した人たちの相互作用により作り出される芸術品のようなものです。人間関係の機微が滲み出ています。特にトークコンサートに、ライブの特徴が出ているように思います。その雰囲気的一端しか表現できていないとしても、医学部を卒業して50周年となる節目の年に、少しでも記録に残すことができることを、心より有難く思っています。

2015年3月吉日

大分大学名誉教授 中野 重行